

◎新コーナー 知ってみたい 山梨

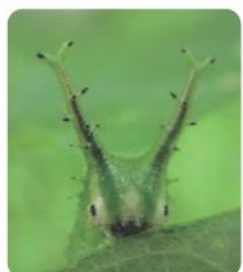
ふるさと倶楽部の会員は、ほとんど他県からの移住者です。このコーナーでは「へえー！」「そうなんだ！」とおもうような特色ある山梨の自然や文化などを紹介していきます。

オオムラサキの一生

オオムラサキは昭和32年に日本昆虫学会で世界に誇る格調高い華麗な蝶として国蝶に定まった。オオムラサキセンターでの自然観察の際の解説をもとにまとめてみた。



卵:オオムラサキはエノキの葉に卵を産む。1羽の母蝶が1回に10個程産み、その繰り返して300個もの卵を産む。アゲハが真珠のような卵をたった一つ産み付けて飛びさる姿と比べると、生命力溢れ大胆な産卵のように感じる。蝶は前足が退化したが、その先にセンサーがあり、卵から孵った幼虫が食べられる葉かどうかを調べて産卵するという。



幼虫:黒く3mm程の1令幼虫から6cm程の緑色の立派な4令幼虫まで成長する様や、正面からの顔にもつい癒やされる。サナギ寸前の前幼虫は遙な距離を移動してクヌギの木や時には建物の支柱などについてサナギとなる準備をする。



サナギ:オオムラサキは葉に対して垂直に頭を下に向けてついている。尾の端にはオオムラサキ特有の強力テープのような凹凸部分を持っているので強風にも耐える強さがある。



成虫:オスは7月上旬～中旬に羽化しメスはその1週間後となる。8月にはメスばかりとなるそうだ。センターのビバリウムにはシーズン中、2000匹も飛んでいるが、500個もの卵が産まれたとして、そのうちの10個しか蝶にならないという比率である。各段階で蟻や鳥に食べられ減るのだが、大変強い蝶なのでたくさん生き残ると自然界のバランスが崩れるという話を聞いた。オスのあの美しい紫は光の反射によって見えるだけで、羽自体に色はついていないそうだ。

最後にオオムラサキが生息するには人が関与して保たれる環境こそ必要なのであると知った。意識新たに生活したいものと思う。(〇〇〇〇)

資料提供 北杜市オオムラサキセンター



◎運営委員会からのお知らせ

●ふるさと祭りの実施について —経過報告—

ふるさと祭り実施に向けて、運営委員会では5月から会議を重ねてきました。過去の資料を頼りに出展(店)者募集や出演依頼、チラシ作成などできるところからの出発。なんせ、運営委員全員が祭りを運営するのは初めてなのです。過去の写真を見てのイメージ作りは苦戦しましたが何度となく確認を重ね、ようやく思い浮かべる「祭り」がまとまりつつあります。会場の下見、備品の数を何度も確認し、会場のレイアウトができあがりました。

出店の応募は、スコーンやスモモジャムなどの販売、木彫りやカラマツ会の展示コーナー、初出店の革製品やハンドマッサージ、織物の展示販売など楽しみなコーナーが予定されています。

コロナで活動が中止し会員同士も会えない日が続きましたが、今年は「祭り」をきっかけに「会いたい！」「笑いたい！」「楽しみたい！」を実現しましょう。(〇〇〇〇)



●次期ふるさと倶楽部運営委員を募集します！！

八ヶ岳ふるさと倶楽部は、多くの方々が運営委員となり、知恵を出し合いながら様々な行事を行っています。日頃より会員の皆様のご理解とご協力に感謝しております。今、25期の運営委員を募集しています。ふるさと祭りをお手伝いいただきながらふるさと倶楽部の活動を経験しませんか？連絡先はふるさと倶楽部ホームページまで、積極的な参加をお待ちしています。